

BROADBAND GATE

Linux エンジン搭載ブロードバンドルータ

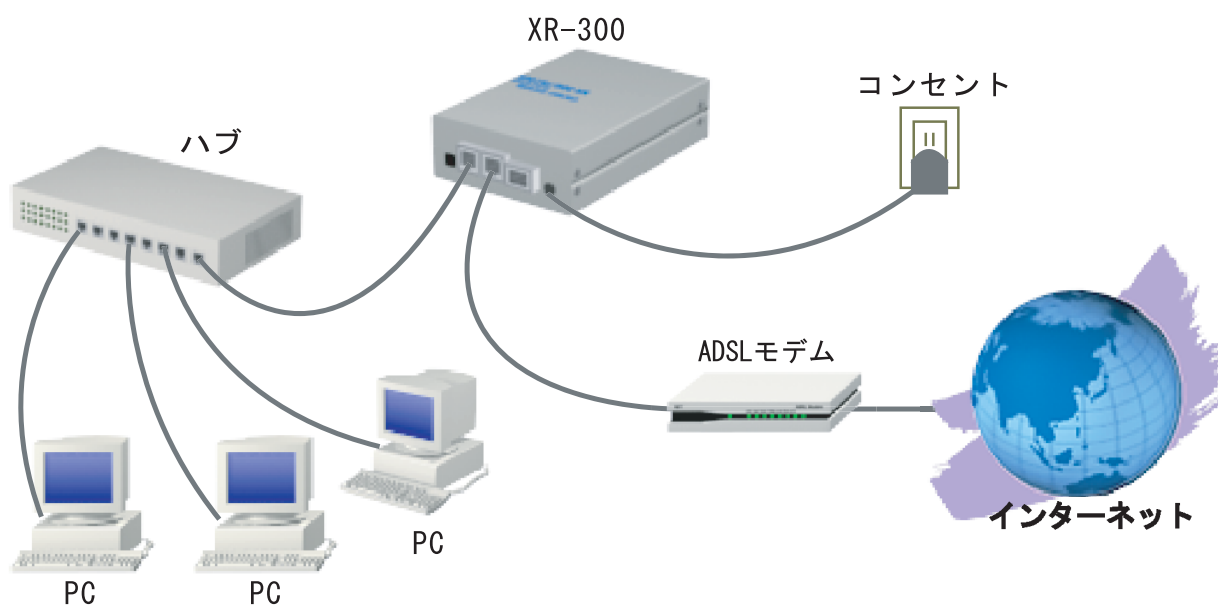
FutureNet ***XR-300***

フレッツ ADSL 接続ガイド

センチュリー・システムズ 株式会社

STEP0: ハードウェアの接続

XR-300 と ADSL モデムやコンピューターは、以下の手順で接続してください。



- 1** 本装置と ADSL モデムやパソコン・HUB など、接続する全ての機器の電源が OFF になっていることを確認してください。
- 2** 本装置の背面にある Ether0 ポートとハブを、ストレートタイプの LAN ケーブルで接続してください。
- 3** 本装置の背面にある Ether1 (XR-300/TX4 の場合は Ether1 ~ 3 のいずれか) ポートとケーブルモデムや、別セグメントの HUB 等を LAN ケーブルで接続してください。接続に使うケーブルの種類は、各機器の説明書等をご覧ください。
- 4** 本装置と AC アダプタを接続して下さい。(この状態では、AC アダプタをコンセントにささないで置いてください)
- 5** 全ての接続が完了しましたら、本装置と各機器の電源を投入してください。

STEP1: 設定画面へのログイン

1 各種ブラウザを開きます。

2 ブラウザから設定画面にアクセスします。
ブラウザのアドレス欄に、以下の IP アドレスと
ポート番号を入力してください。

`http://192.168.0.254:880/`

「192.168.0.254」は、Ether0 ポートの工場出荷時の
アドレスです。アドレスを変更した場合は、そ
のアドレスを指定してください。**設定画面のポ
ート番号 880 は変更することができません。**

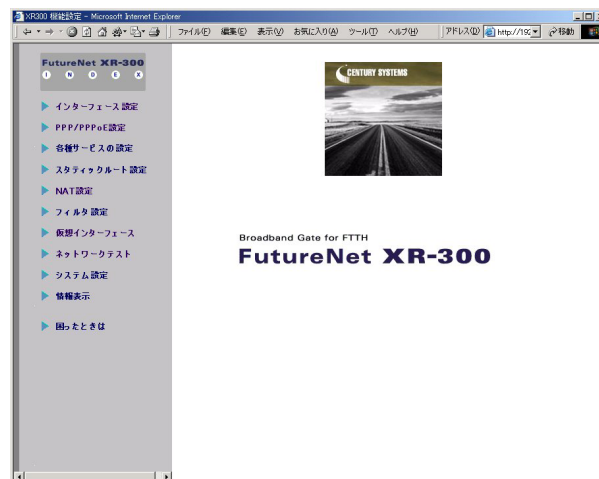
3 次のような認証ダイアログが表示されます。



4 ダイアログ画面にパスワードを入力します。
工場出荷設定のユーザー名とパスワードはともに
「admin」です。ユーザー名・パスワードを変更し
ている場合は、それに合わせてユーザー名・パス
ワードを入力します。



5 ブラウザ設定画面が表示されます。



[ご注意ください!]

工場出荷時の設定では、Ether0 ポート以外の
インターフェースではすべてステートフルパケッ
トインスペクションが有効になっているため、
Ether0 ポート以外のインターフェースからは設
定画面にアクセスできないようになっていま
す。

Ether0ポート以外のインターフェースから設定
できるようにするには、それぞれのインター
フェースでパケットフィルタ設定が必要です。
詳細はユーザーズマニュアルをご覧ください。

STEP2: LAN 側インターフェース設定

1 設定画面の「インターフェース設定」をクリックします。

2 「Ethernet ポートの設定」をクリックします。

Ether0 ポート(LAN 側)の設定

Ether 0ポート

固定アドレスで使用
IPアドレス
ネットマスク
MTU

DHCPサーバから取得
ホスト名
MACアドレス

IPマスカレード
(このポートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います)

ステートフルパケットインスペクション

ポートの通信モード
 自動 full-100M half-100M full-10M half-10M

- ・「固定アドレスで使用」と「DHCP から取得」
「固定アドレスで使用」を選択します。
- ・「IP アドレス」
LAN 側で使用する IP アドレスを入力します。
<入力例> 「192.168.0.254」
- ・「ネットマスク」
サブネットマスクを入力します。
<入力例> 「255.255.255.0」
- ・「IP マスカレード」
チェックを入れません。
- ・「ステートフルパケットインスペクション」
チェックを入れません
- ・ポートの通信モード
「自動」をチェックします。

Ether1 ポート以降は初期設定のままにします。

3 入力が終わりましたら「設定の保存」ボタンをクリックし、設定を保存します。

STEP3: プロバイダの設定

1 設定画面の「PPP/PPPoE 設定」をクリックします。

2 はじめに、接続先の設定をおこないます。「接続先設定」1～5のいずれかをクリックします(5つまで設定を保存しておくことができます)。

プロバイダ名	<input type="text"/>
ユーザID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
DNSサーバ	<input type="radio"/> 割り当てられたDNSを使わない <input checked="" type="radio"/> プロバイダから自動割り当て <input type="radio"/> 手動で設定 プライマリ <input type="text"/> セカンダリ <input type="text"/>
LCPキープアライブ	チェック間隔 <input type="text" value="30"/> 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する 使用するホスト <input type="text"/> 発行間隔は30秒固定、空欄の時はP-IP-Gatewayに発行します

UnNumbered-PPP回線使用時に設定できます

IPアドレス	<input type="text"/>
回線接続時に割り付けるグローバルIPアドレスです	

PPPoE回線使用時に設定して下さい

MSS設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効(強制) MSS値 <input type="text"/> Byte (有効時にMSS値が0の場合は、MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。最大値は1452。ADSLで接続中に変更したときは、セッションを切断後に再接続する必要があります。)
-------	---

プロバイダ名

任意で接続するプロバイダ名を入力できます(接続には関係ありません)。

ユーザー ID

プロバイダから指定されたユーザー IDを入力してください。

ユーザーパスワード

プロバイダから指定された接続パスワードを入力してください。

DNSサーバ

特に指定のない場合は「プロバイダから自動割り当て」をチェックします。

指定されている場合は「手動で設定」をチェックして、DNSサーバのアドレスを入力します。

プロバイダから DNS アドレスを自動割り当てされてもそのアドレスを使わない場合は「割り当てられた DNS を使わない」をチェックします。この場合は、LAN 側の各ホストは DNS サーバのアドレスをそれぞれ設定しておく必要があります。

IP アドレス

動的 IP アドレスでの接続の場合、ここにはなにも入力しません。

固定 IP アドレスでの接続の場合は、その固定 IP アドレスを入力してください。

LCP キープアライブ

接続状態を確認するための echo パケットを送出する間隔を指定します。工場出荷設定では 20 秒になっています。(echo パケットを 3 回送出して reply を検出しなかったときに、XR-300 が PPPoE セッションをクローズします)

ping による接続確認

ping によって接続状態を確認するときは「使用する」をチェックします。使用するホストは特定の IP アドレスをしていします。

空欄のまま設定すると P-t-P に対して ping を送出します。この場合は PPPoE セッションが正常に維持できないことがありますのでご注意下さい(局側で ping による接続確認に対応していないことがあります)。

MSS 設定

「有効」を選択すると、パケットの MSS を PPPoE 接続に最適なサイズ(1412byte)にします。通常はこの機能は有効にしておきます(無効にしたり設定値を変更すると、正常にアクセスできなくなる場合があります)。

設定は以上です。Clamp to MSS 値の項目以下は設定しないでください。

3 最後に「設定」ボタンをクリックしてください。設定はすぐに反映されます。

STEP4: フレッツ回線の接続と切断

- 1 設定画面の「PPP/PPPoE 接続設定」をクリックします。
- 2 右画面の「接続設定」をクリックして、以下の画面から設定します。

接続設定

回線状態	回線は接続されていません
接続先の選択	<input checked="" type="radio"/> 接続先1 <input type="radio"/> 接続先2 <input type="radio"/> 接続先3 <input type="radio"/> 接続先4 <input type="radio"/> 接続先5
接続ポート	<input type="radio"/> RS232C <input type="radio"/> Ether0 <input checked="" type="radio"/> Ether1
接続形態	<input type="radio"/> 手動接続 <input checked="" type="radio"/> 常時接続
IPマスカレード	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
ステートフルパケット インスペクション	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
デフォルトルートの設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
IPsecの自動起動	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
接続IP変更 お知らせメール	<input checked="" type="radio"/> 送信しない <input type="radio"/> 送信する
お知らせメールの宛先	<input type="text"/>
お知らせメールの Fromアドレス	<input type="text" value="xx"/>

回線状態

現在の回線状態を表示します。

接続先の選択

どの**接続先設定**を使って接続するかを選択します。

接続先ポートの選択

どのポートを使って接続するかを選択します。
通常は「Ether1」を選択してください。

接続形態の選択

「手動接続」 PPPoE(PPP)の接続 / 切断を手動で切り替えます。

「常時接続」 XR-300 が起動すると自動的に PPPoE (PPP)接続を開始します。

IPマスカレード

「有効」を選択してください。

ステートフルパケットインスペクション PPPoE(PPP)接続時に、ステートフルパケットインスペクションを有効にするかどうかを選択します。セキュリティのためにも、「有効」にすることを推奨します。

IPsecの自動起動

通常は「無効」を選択しておきます。

接続 IP 変更お知らせメール機能

IPアドレスを自動的に割り当てられる方式で PPPoE(PPP)接続する場合、接続のたびに IP アドレスが変わってしまうことがあります。この機能を使うと、IP アドレスが変わったときに、その IP アドレスを任意のメールアドレスにメールで通知することができますようになります。

接続 IP 変更お知らせメール

お知らせメール機能を使う場合は、「有効」を選択します。

お知らせメールのあて先

お知らせメールを送るメールアドレスを入力します。

お知らせメールの From 項目

お知らせメールのヘッダに含まれる、「From」項目を任意で設定することができます。

3 すべての設定が完了しましたら、「設定の保存」をクリックして、設定完了です。

4 最後に、画面最下部にある「接続」ボタンをクリックして接続を開始します。

「手動接続」設定にした場合は、「切断」「接続」をそのつど、手動で制御してください。

STEP5: DHCP サーバ機能の設定

XR-300 が搭載している「DHCP サーバ機能」を使ってコンピューターへの IP アドレス登録を自動的におこない、インターネットにアクセスできるようにします。

以下の手順で設定してください。

ここで記載する設定内容は、Ether0 ポートの IP アドレスが工場出荷値の「192.168.0.254(24 ビットマスク)」であると仮定したときのものです。Ether0 ポートの IP アドレスを変更している場合は適宜、設定内容を読みかえてください。

DHCP サーバ機能設定

1 Web 設定画面にログインします。

2 「各種サービスの設定」 「DHCP(Relay)サーバ」画面上部「DHCP サーバの設定」をクリックして、以下の画面で設定をおこないます。

サーバの選択

「DHCP サーバ機能」を選択します。

サーバの選択	<input checked="" type="radio"/> DHCPサーバを使用する	<input type="radio"/> DHCPリレーを使用する
--------	---	------------------------------------

サーバの設定

<input checked="" type="checkbox"/> サブネット1	サブネットワーク	192.168.0.0
	サブネットマスク	255.255.255.0
	ブロードキャスト	192.168.0.255
	リース開始アドレス	192.168.0.10
	リース終了アドレス	192.168.0.100
	ルータアドレス	192.168.0.254
	ドメイン名	localdomain.co.jp
	プライマリDNS	192.168.0.254
	セカンダリDNS	
	標準リース時間(秒)	600
	最大リース時間(秒)	7200

・サブネット

「サブネット1」にチェックを入れます。

・サブネットワーク

「192.168.0.0」を入力します。

・サブネットマスク

「255.255.255.0」を入力します。

・ブロードキャスト

「192.168.0.255」を入力します。

・リース開始アドレス / 終了アドレス

DHCP クライアントに割り当てる最初と最後の IP アドレスを指定します(割り当て範囲となります)。

「192.168.0.1」から 30 個の IP アドレスを自動割り当てとしたい場合、

リース開始アドレスに「192.168.0.1」

リース終了アドレスに「192.168.0.30」

と入力します。

・ルータアドレス

通常は XR-300 のインタフェースの IP アドレスを指定しますので、「192.168.0.254」を入力します。

・ドメイン名

DHCP クライアントに割り当てるドメイン名を入力します。必要であれば指定してください。

・プライマリ DNS

XR-300 は DNS リレー機能を搭載していますので、通常は XR-300 の IP アドレスを指定してかまいません。

この例では「192.168.0.254」を入力します。

標準リース時間

任意で設定します。

最大リース時間

任意で設定します。初期設定では 7200 秒になっています(7200 秒以上のリース時間要求を受けても、7200 秒がリース時間になります)。

STEP5: DHCP サーバ機能の設定

3 入力が終わりましたら「設定の保存」をクリックして設定完了です。

4 DHCP サーバ機能を有効にするために、「各種サービスの設定」トップに戻り、「**DHCP(Relay)サーバ**」サービスを有効にしてください。

正常に起動すると、ステータスが「動作中」になります。

5 最後に、各コンピューターの IP アドレス設定を自動的におこなう設定にして、再接続してください。IP アドレス設定については、各 OS の取扱説明書をご覧ください。

XR-300 フレッツ ADSL 接続ガイド

2002年12月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

2001,2002 CENTURYSYSTEMS, INC. All rights reserved.
